

防災・避難

自動火災報知設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 炎感知器は、天井が高い空間のように、熱や煙が天井面に到達する以前に分散し、火災検出が困難な場所において使用される。
2. P型受信機は、R型受信機と異なり、固有信号による伝送方式であるので信号線を少なくすることができる。
3. 地区音響装置における区分鳴動方式とは、火災時に一斉に鳴動させることでパニックを発生させないように、階の区分ごとに限定して鳴動させる方式のことである。
4. 予備電源が内蔵されていない受信機と非常電源間の配線には、火災時に異常なく動作させるために、耐火配線を使用する。

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 排煙設備の設置が必要な百貨店において、排煙設備の排煙口を、防煙区画のそれぞれについて、当該防煙区画の各部分から排煙口のいずれかに至る水平距離が30m以下となるように設置した。
2. スプリンクラー設備の設置が必要なホテルにおいて、床面から天井面までの高さが12mのロビーに、放水型ヘッドを使用したスプリンクラー設備を設置した。
3. プロパンガスを使用する厨房において、ガス漏れ警報器の検知部を、燃焼機器から検知部までの水平距離が8m以内、かつ、天井面から検知部下端までの高さが0.3m以内となるように設置した。
4. 劇場において、客席誘導灯を、客席内の通路の床面における水平面照度が0.2lx以上となるように設置した。

消防用設備等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 消火薬剤の放射により消火するパッケージ型自動消火設備を、スプリンクラー設備の代替設備として延べ面積1,500m2の特別養護老人ホームに設置した。
2. 窒息効果と冷却効果により消火する泡消火設備を、地下駐車場に設置した。
3. 水幕を張ることにより外部等からの延焼を防止するドレンチャー設備を、重要文化財の神社に設置した。
4. 消防用水を、屋内消火栓設備やスプリンクラー設備等の初期消火設備のための専用水源として設置した。

消防用設備等に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 屋内消火栓設備において、1号消火栓については、階ごとに、その階の各部分から消火栓のホース接続口までの水平距離が25m以下となるように設置した。
2. スプリンクラー設備において、スプリンクラーヘッドが設けられていない部分に設ける補助散水栓については、階ごとに、その階の各部分からホース接続口までの水平距離が15m以下となるように設置した。
3. 屋外消火栓設備については、建築物の各部分から屋外消火栓のホース接続口までの水平距離が50m以下となるように設置した。
4. 事務所ビルの連結送水管の放水口については、3階以上の階ごとに、その階の各部分から水平距離が50m以下となるように設置した。

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 水噴霧消火設備は、噴霧水による冷却作用と噴霧水が火炎に触れて発生する水蒸気による窒息作用等により、火災の抑制・消火をする固定式の消火設備である。
2. 排煙設備は、専用の設備として設けることが原則であるが、換気設備が排煙設備としての性能を有していることが確認された場合には、兼用が認められることがある。
3. 屋外消火栓設備は、防火対象物の外部に設置され、建築物の1階部分及び2階部分で発生した火災の消火や隣接する建築物への延焼防止を目的としている。
4. 連結送水管は、地下階の火災の際、消火活動を容易にするために、消防ポンプ自動車から送水し、天井又は天井裏の散水ヘッドから放出することにより消火する設備である。

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 閉鎖型スプリンクラーヘッドの種別について、感度種別が1種で、かつ、有効散水半径が2.6m以上であるものは「高感度型」に分類される。
2. 自動火災報知設備において、差動式熱感知器は、一般に、厨房、ボイラー室又はサウナ室に設置する。
3. 非常用の照明装置は、常温下で床面において水平照度で1lx（蛍光灯又はLEDランプを用いる場合には2lx）以上を確保する。
4. 排煙設備の排煙口は、原則として、防煙区画のそれぞれについて、当該防煙区画部分の各部分から排煙口のいずれかに至る水平距離が30m以下となるように設ける。

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 排煙口は、防煙区画部分の各部分から水平距離で30m以下となるように設けなければならない。
2. 廊下や通路部において、避難の方向を明示する誘導灯は、通路誘導灯に区分される。
3. 定温式熱感知器は、急激な温度上昇を生じる厨房やボイラー室には設置しない。
4. ドレンチャー設備は、外部等からの延焼を防止するため、ドレンチャーヘッドから放水し、水幕をつくる消火設備であり、重要文化財の神社や仏閣等に使用されている。

非常用の照明装置
床面：1lx
蛍光灯、LEDランプ：2lx
30分以上点灯
内蔵型、別置き型
予備電源
客席誘導灯
客席誘導灯
水平面照度：0.2lx以上
誘導灯
床上：1m以内
通路誘導灯
誘導灯
20分以上点灯
常時点灯
避難口誘導灯
無線通信補助設備
地下街：1,000m以上
無線通信補助設備
11以上の階
非常用コンセント設備
地下街：1,000m以上

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 非常用の照明装置の予備電源には、蓄電池を照明器具に内蔵しない方式がある。
2. 差動式熱感知器は、周囲が一定の温度以上になると火災信号を発する感知器である。
3. 補助散水栓は、屋内消火栓のうち2号消火栓(広範囲型を除く。)と同等の放水量を有し、スプリンクラー設備へ配管接続する。
4. 開放型スプリンクラーヘッドは、天井が高く種々の可燃物がある舞台等に用いる。

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 予作動式の閉鎖型スプリンクラー設備は、非火災時の誤放水を避けるため、衝撃等でスプリンクラーヘッドが損傷しても散水を抑える構造となっている。
2. イナートガス消火設備は、設計値量の消火剤が誤作動により放出されても、人命への危険性はほとんどない。
3. 屋外消火栓設備は、防火対象物の外部に設置され、建築物の1階及び2階部分で発生した火災の消火や隣接建築物への延焼防止を目的としている。
4. 連結送水管の放水口は、建築物の使用者が火災の初期の段階において直接消火活動を行うために設置する。

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 連結散水設備は、地階の火災の際、消火活動を容易にするため、消防ポンプ自動車から送水して天井又は天井裏の散水ヘッドから放出し、消火する設備である。
2. 泡消火設備は、冷却効果によって消火する設備であり、発電機等の機械室に設置される。
3. 無線通信補助設備は、無線連絡に支障がないように、消防隊相互の無線連絡を可能にするための設備であり、延べ面積が1,000m以上の地下街に設置される。
4. 非常用コンセント設備は、消防隊が有効に消火活動を行えるように電力供給する設備であり、建築物の地階を除く階数が11以上の階及び延べ面積が1,000m以上の地下街に設置される。

防災設備に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。
1. 予作動式の閉鎖型スプリンクラー設備は、非火災時の誤放水を避けるため、衝撃等でスプリンクラーヘッドが損傷しても散水を抑える構造となっている。
2. イナートガス消火設備は、設計値量の消火剤が誤作動により放出されても、人命への危険性はほとんどない。
3. 屋外消火栓設備は、防火対象物の外部に設置され、建築物の1階及び2階部分で発生した火災の消火や隣接建築物への延焼防止を目的としている。
4. 連結送水管の放水口は、建築物の使用者が火災の初期の段階において直接消火活動を行うために設置する。

